



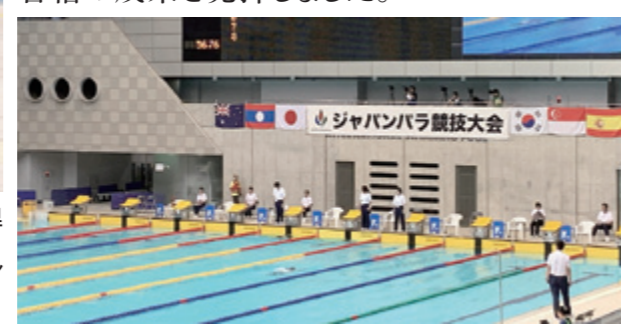
応援と交流を続けていきます

合宿の終盤、9月18日には、ラオスパラリンピック委員会のブンナック副委員長(上の写真左から3人目)らが来村。飯館村は、同委員会と、今後の事前合宿や交流事業について覚書を取り交わしました。

また、合宿直後の21日から横浜国際プール(神奈川県横浜市)で開催された「2019ジャパンパラ水泳競技大会」に出場したランポーン選手とヴォンラチット選手は好成績を収め、合宿の成果を発揮しました。



100m自由形で銀メダルを獲得し観客席に手を振るランポール選手。右は大会会場の様子



選手団の皆さんは、気さくでいい方ばかりでした。ラオスでは、働きたり、さまざまな制約がある中で練習を重ねていて、合宿の環境をとて喜んでくれました。合宿を受け入れるにあたり、言葉の壁が心配されましたが、身振り手振りでコミュニケーションができて、冗談も通じるんですね。スポーツを通じた交流の楽しさ、素晴らしいと感じました。来年はいよいよ東京オリンピックパラリンピックの年。選手団の皆さんには、ぜひ出場権を獲得してほしいです。村としては、今回のつながりを生かして、応援と交流を続けていきたいと考えています。



ホストタウン活動 担当 総務課企画係 庄司伸也 ※右はヴォンラチット選手



1.ラオス国旗を手に歓迎する中学生。2.ふるさと学習の様子を見学。3.給食の時間ラオス語の「いただきます」に笑顔がこぼれました。4.ラオスの皆さんからプレゼント。幸運をもたらす手づくりの「チャーム」を手首に巻いてもらいました。

「ふるさと学習」の一環として、「ホストタウンプロジェクト」を展開し、ラオスとの交流の準備を行ってきた飯館中学校。その成果を生かした歓迎が、選手団の心を和ませました。菅野沙菜さん(3年)は、英語でスピーチ。プロジェクトの歩みを紹介し、歓迎の言葉を述べました。ラオスのことを学び、交流の方法を工夫してきた中学生の気持ちは、選手団にしっかりと届いたようです。交流後の選手のコメントを一部紹介しましょう。「中学生との交流楽しかったなあ。パトウーサイすごいです。ありがとう飯館」。「中学生の活動に心を動かされました。おいしいスムージーもありがとう」。



ラオス料理にもよく使われるパクチーの風味を生かしたスムージーでおもてなし。「とてもおいしい」と大好評で、生徒が大急ぎでおかわりを用意する一幕も。

ホストタウンプロジェクト@飯館中学校